

M.K コンサルティング会社勤務

東京大学大学院

工学系研究科卒

学部を卒業した [2年前のレポート](#)同様このレポートを見る学生の参考になるような文章を目指したい。そこで今回は趣向を変え、私の失敗に着目して大学院生活 2 年間を振り返ることを試みようと思う。多くの体験談、特に成功体験に基づいたものには往々にして書き手によるバイアスがかかっている。偶然の要素や属人的な要素、その他特殊な条件が絡む場合があり、必ずしも参考にできるわけではない。その点失敗については成功より再現性が高く、今後の指針を立てる上での教訓としやすい。自分が何をやれば良いか、を選ぶことよりも何をやってはいけないかを知ることの方が簡単である。ここに述べることなど既に承知のことかもしれないが、もし参考になるのであれば楔としてもらえると幸いである。

失敗①: 過度の忠勤

進路を選ぶ際、熱意で選ぶか勝算で選ぶかといった尺度がある。大学院での研究に関して当初自分は勝算で選んだ。他分野に跨る研究であり、また実験動物の臓器移植など特殊な適性も求められるものだった。目論みの通り自分はその全てに適性があり、降ってくる大量の困難を捌きながら結果を出すことができていた。周囲からの期待も大きく、それに応えうる自分であることは楽しい。必要とされている、という実感があるのは日々を過ごす上で大切なことである。ただ噛み合いが良くなかった。

自分の所属するテーマの研究グループは当初 10 人程の大所帯であったが、博士の先輩の卒業や就職、また研究室そのものの他大学への移籍といった特殊な事情も重なり人数が激減、年度が替わる頃にはグループが一旦自分一人になってしまった。複数人分のノウハウの自分への継承、またその先の新入生の教育なども兼ねたプラン変更、これまでグループ全体で担っていた他の研究テーマの人々に対する実験協力などの対応に追われることとなった。文字通り身を粉にして、もちろん周りの優秀な人々の協力もありつつ乗り切ることができてしまったが、あまりにも自分の研究や進路に対する時間を削りすぎたかもしれない。所属への貢献や周囲に対する義理は美德であるし大事にしたいものだが、多少冷静になることも大事だったように思う。ある日来なくなってしまった先輩について別の先輩が彼も彼の人生がありますからそれも良い選択だろうとコメントしていた時にふとそう思った。

失敗②: 過度の楽観

削った時間は何かを犠牲にしたものである。自分の場合はそれが就職活動であった。最近の就職事情は異常で、一つ下の後輩は僕より早く就職活動を始めていたほどだ。博士進学も視野に入れていたし、就職するにしてもなんとかなるだろうという自信はあった。自分が大学でやってきたことに関してどこに出しても恥ずかしくないものを持っているという自負もあった。この楽観が見積もりを甘くした。ある日博士を考えているということを口に出したところ、その当時博士だった先輩から鬼の形相で止められたということがあった。曰く絶対に来てはいけないということである。誰かが当人のメリットにならないことを言ってくれている

ときは真剣に聞き入れたほうが良いように思う。自分には能力があると思っていたし、金銭的な後ろ盾はないもののまた奨学金やバイトなどでなんとか食い繋ぐこともできるだろうと考えていたが、この一件以来大学院に残る不透明な将来がすっかり怖くなってしまった。

かくして就職活動を始めたものの、①の諸々を抱えたまま就職活動のみに時間を割くのは難しく、また自分は面接が下手であることに気づいたときには殆どの人々は就職活動を終えていた。完全に見立ての甘さが露呈していた。20社ほど落ちたとき見かねた友人が勧めてくれた会社にギリギリで滑り込むこととなった。これもまた良い縁であることは事実だが、本当に偶々友人が勧めてくれて偶々選考を通っただけなのも事実である。残念ながら研究をいくら頑張ろうとも評価されない場はある。結局専攻とは全く関係ない会社で働くこととなった。それはそれで気に入ってはいるものの、ある研究発表のあと他大学の先生からもったいない進路で残念だと言われたことが忘れられない。

失敗に着目したためこのような暗い文章になってしまったが、基本的には楽しく刺激に満ちた二年間であった。出会った人々や経験は間違いなく自分の血肉となり、また多くはないが確実に後進に繋がるものを残すこともできた。直接的ではないもののこの春からの業務や今後の未来にも活かされるものだと思う。学部での4年、ひいては東京に出てからの生活は自分の努力や環境のカスタマイズに対して打てば響く実感があり価値観が大きく変わった期間であったように思うが、院での2年は自分(更には周りの人々)の力ではどうにもならないこともあるという上京以前の価値観を取り戻すような2年間であった。どちらが良いという話でもなくバランスだと思う。間違いなく全力を尽くし、その時々でできることをやっても未練や反省が残ることもある。これからも似た状況は少なくないはずだろう。ただ、その選択を最終的に失敗にするか否かはこれからの自分次第であることは忘れずにいたい。